

# ヒラメ曳縄漁法の導入

北薩地域振興局農林水産部林務水産課

## 【背景・目的】

甌島周辺海域においては、キビナゴ漁が盛んに行われているが、近年の水揚量は減少傾向にあるうえ、燃油や漁業資材の高騰などにより、厳しい経営状況にある。

一方、冬場になると甌島周辺の定置網にはまとまった量のヒラメが入網することがあり、ある程度の資源の回遊があるものと考えられる。

そこで、キビナゴ漁等を営む傍らヒラメ資源を有効に活用し、経営安定の一助とする目的で、ヒラメ曳縄漁法の導入を試みた。

## 【普及の内容・特徴】

試験操業に使用した漁具構成は以下のとおりで、特に漁獲の良し悪しを左右する潜行板については振れ方や潜行深度が適当となるよう留意した。

振れ方については、片揺れがないよう後部上面のゴム板で調整し、深く早く潜行させるため、曳き索の取り付け位置を標準より10mm後方にずらし、ピン無しでも深く潜行するよう工夫した。

曳き索：ナイロンテグス30号  
潜行板：K型8号1枚  
幹 糸：ナイロンテグス20号  
枝 糸：フロロカーボン10号  
疑似餌：曳縄用タコホロ3.5号2本，ヒラメ用ワーム1本  
針：かん付曳縄13～15号

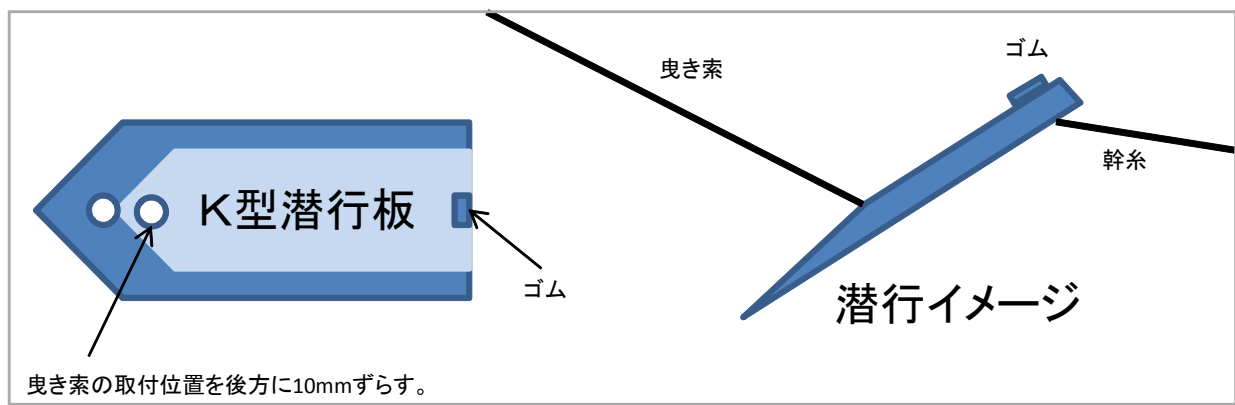


図1 潜行板

試験操業は、平成26年3月17日、午後12時～14時の間、汐痢丸（0.74トン）を用い、上甌島平良沖水深10～30mにおいて行った。

漁場は、魚探と漁業者の意見をもとに瀬付近の砂地周辺を中心を選び、深度はなるべく海底近くを通過するよう曳航速度を調整した。

## 【成果・活用】

試験操業による釣果は、オオモンハタ（0.9kg）、エソ、ハマフエフキで、ヒラメの釣果

は無かったが、今回試験操業を行った漁場近くの定置網では、当時ヒラメの入網がある程度あったことから、潜行板の振れ方や疑似餌の調整等に更なる工夫や改良が必要と考えられた。

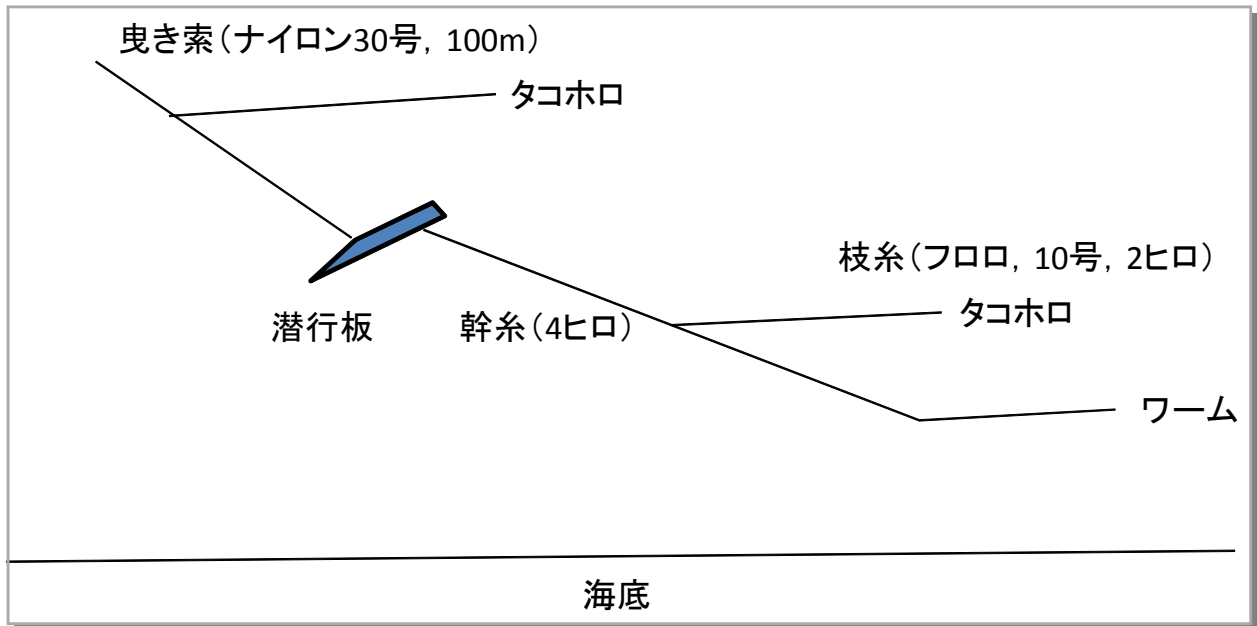


図2 漁具図



写真1 漁具



写真2 潜行テスト